



## 岩手県二戸市「歩行者の安全確保対策について」 ～車社会から子供達の命を守るために～

地方の実情にあった公共事業を考えるシンポジウム  
(H17.11.24 東京虎ノ門パストラル 事例発表より)

岩手県の二戸市で実施しています「歩行者の安全確保対策」について説明します。最初に、岩手県二戸市の位置について説明します。地図ですが、まさかしの形をしていてオレンジ色が青森県となっていて、その南、太平洋側の青の部分が岩手県となっています。二戸市は、岩手県の北部で青森県と接しています、東北新幹線「はやて」で東京から約3時間かかります、終点「八戸」の手前の駅です。人口は、二万七千人の市です。二戸市には、温泉もありますし、また、あわやひえなどの雑穀の生産量が多く、雑穀により町おこしをしています。右下の絵は、五穀ラーメンといわれて、盛岡の冷めんと似ており、雑穀を使った麺となっています。そのほかにも、雑穀を使ったお菓子なども提供しています。

次に対策箇所の概要について、説明します。右の写真のように側溝をいれて7.5mと狭くなっています。旧国道4号で今は県道となっています。交通量が1日約1万台、通学路となっていて歩行者が700人、自転車が160台利用しています。都市計画区域で商業地域となっていて商店、住居、銀行などが立ち並んでいます。延長800mの区間が特に狭くなっており、今回の対策箇所となっています。

対応として、二戸市、警察、土木部が緊急対策会議を開催し、緊急対策として車線分離標を設置しました。車線分離標は、サイドラインの位置に設置し、緊急に歩行空間を確保しました。その後、平成16年7月に「歩行者等安全対策」検討会を設立しました。検討会の構成員としては、地区の団体として、小中学校のPTA、商工会、町内会、トラック、タクシー、バス会社と、行政側では、二戸市、警察署、振興局で組織しました。

検討会の経緯は、第1回に地区の概況説明、歩行者に配慮した断面構成案を提示し検討を重ねました。検討会で了承された計画案について1回目の現地試行を11月16日から25日に行いました。第4回検討会では、試行の結果や住民アンケートの結果の報告があり、それを踏まえて、2回目の現地試行を2月1日から10日に行いました。第5回検討会では、2回の現地試行や住民アンケート結果を総合的に検討して最終計画案をまとめることができました。この結果については、平成17年度から18年度で現地の施工をすることとしました。

通常期の現地試行について説明します。まず、センターラインの消去と路肩ラインの引き直しを行ってサイドサインの間の幅を4.5mとしました。これは、歩行空間の確保や車両の走行速度を落とすことを目的に実施しました。ポストコーンの設置は車道側から路肩を意識させるため実施しました。次に、路肩と側溝の部分を歩行空間として緑色に着色しました。この着色によって、歩行者の安心感が得られ、また、路肩への駐車がしにくくなると考えました。30kmの臨時速度規制も実施しました。また、試行区間の前後には、案内看板を設置して通行者にお知らせをしました。自転車の交通量も多いことから、自転車と歩行者がすれ違う時は押して歩くように看板でお知らせしました。

冬期の施行も実施したわけですが、通常期と違う点があります。通学路側の歩行空間を広く確保したこと、歩行空間の着色を橙色としました。それから、冬期なので、より路肩をわかるようにポストコーンの数を増やしています。2回実施しました試行結果について説明します。大きく3つあって、まず、交通量が約千台減ってしま





